

わたしが命のパンである

ヨハネによる福音書 6:41-51

(そのとき、) ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から降って来たパンである」と言われたので、イエスのことをつぶやき始め、こう言った。「これはヨセフの息子のイエスではないか。我々はその父も母も知っている。どうして今、『わたしは天から降って来た』などと言うのか。」イエスは答えて言われた。「つぶやき合うのはやめなさい。わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させる。預言者の書に、『彼らは皆、神によって教えられる』と書いてある。父から聞いて学んだ者は皆、わたしのもとに来る。父を見た者は一人もいない。神のもとから来た者だけが父を見たのである。はっきり言っておく。信じる者は永遠の命を得ている。わたしは命のパンである。あなたたちの先祖は荒野でマンナを食べたが、死んでしまった。しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べる者は死なない。わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生きるためのわたしの肉のことである。」

説教

先週の続きです。4章でサマリア人たちはイエスを信じたという話があります。6章で5つのパンで満腹したガリラヤの人たちははたしてイエスを信じたでしょうか。

ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から降って来たパンである」と言われたので、イエスのことをつぶやき始め、こう言った。「これはヨセフの息子のイエスではないか。我々はその父も母も知っている。どうして今、『わたしは天から降って来た』などと言うのか。」ヨハネ6:41-42

聖書では「つぶやく」は躓くと同じ意味でつかわれます。ツイッターでつぶやくとは違う意味です。預言者は故郷では敬われない、イエスが口にしたことばですが、ここでもイエスを受け入れない、信じないという状況になっています。

これに対してイエスはこう言われます。

イエスは答えて言われた。「つぶやき合うのはやめなさい。わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させる。ヨハネ6:43-44

躓かないでわたしを信じなさいとっていますが、ちょっと条件のようなことも言っています。

父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない

これを深読みして「父は（神さまは）あらかじめ引き寄せる人を決めていく」と解釈するキリスト教のグループがあります。間違った解釈です。躓く人、躓かない人の違いは父が引き寄せるか、引き寄せない（つきはなす？）の違いであり、それはすでに決まっているという解釈です。とても原理主義的な考えかたで、わたしたちはそのような考えを受け入れません。予定説とか二重予定と名付けられた考え方、キリスト教の解釈の一部です。

ところで、信仰・信じるということは「信じない」という経験を経て、より深く信じることができるという逆説的な性質があります。

イエスさまも47節以下でこのような説明をされます。

あなたたちの先祖は荒れ野でマナを食べたが、死んでしまった。ヨハネ6:49

これは出エジプトでマナがユダヤ人を養ったという奇跡のできごとをさしています。ユダヤ人たちはマナに養われてついに希望の地に到達してイスラエルとして自立するのですが、イエスは49節ではマナを食べたが死んでしまったと否定しています。

アリストテレスは人間だ。

人間は必ず死ぬ。

だからアリストテレスは必ず死ぬ。

皆さんご存知の3段論法です。

AはBである。

BはCである。

だからAはCである。

という理屈の展開方法のひとつです。Aの個所の入れ替えを2つやってみます。

マナで養われた先祖は人間だ。

人間は必ず死ぬ。

だからマナで養われた先祖は必ず死ぬ。

イエスが与えるパンを食べる人は人間だ。

人間は必ず死ぬ。

だからイエスが与えるパンを食べる人は必ず死ぬ（ではなく永遠に生きる）

わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生きかすためのわたしの肉のことである。ヨハネ6:51

3段論法でいえばイエスさまは無茶苦茶なことをいっています。イエスさまのマナ否定も理屈では説得力はないようです。でもキリスト教はというより宗教・信仰は、もともと3段論法とは関係のない世界です。しかし、それが理由でつまずきとなるケースもあります。間尺にあわないことを理解することができないという考えも当然です。さきほど信じるとは「信じない」を経てより深くなるといいましたが、この場合にもあてはまります。理屈にあわない、理屈にならないことが理解できる、わかるという経験が信仰をより深めることつながります。

いま引用した51節の後半で、イエスさまはまた飛躍し、わけのわからなさが深まります。

私の与えるパンとは（世を生きかすための）わたしの肉である。

パンはわたしの肉？この続きもまた来週です。
